

長野県立中学校・高等学校
新しい「学びの指標」

令和2年12月
長野県教育委員会

はじめに

長野県教育委員会では、現在、幼保小中高一貫した「学びの改革」を進めています。学習者である子どもたちが主体となる学びへと転換を図り、探究的な学びや、個別最適な学び、協働的な学び等を推進することにより、これからの時代に必要とされる資質・能力を子どもたちに育んでいきたいと考えています。

この「学びの改革」の一環として、令和元年（2019年）10月に、外部有識者や県内中学校・高等学校長等からなる「学びの指標検討会」*を立ち上げ、県立中学校・高等学校の生徒の「学びの成果」を確認するための指標のあり方について検討してきました。

長野県教育委員会として、検討結果を受け、取りまとめたのが、この新しい「学びの指標」です。新しい「学びの指標」とは、他の生徒と比較し、相対的に生徒をみることや、相対的な評価に価値を置くことを排し、生徒一人ひとりに着目し、その現状をそのまま受け止めて受容するとともに、変容や成長を見逃さず、支援していくものです。

この指標が導入・活用され、その趣旨をよりよい形で実現するための不断の改善を通して、学校が、生徒一人ひとりの存在や人権、個性が大切にされ、生徒が生き生きと学ぶことのできる空間となるとともに、すべての生徒・教員にとって居心地のよい、活力に満ちた学びの空間となっていくことを期待しています。

令和2年12月
長野県教育委員会

*参考資料11 ページ参照

新しい「学びの指標」を導入します！

一人ひとりに着目

[学びの総体] → 新しい「学びの指標」

生徒一人ひとりの

- 今の状態を受け止め、受容し、支援する
- 変容・成長を受け止め、支援する

学校を → 生徒一人ひとりの存在や人権、個性が大切にされ、
生徒が生き生きと学ぶことのできる空間に

それにより

個人と社会のWell-being* の実現

* Well-beingとは、一人ひとりが心身の潜在能力を発揮し、人生の意義を感じ、
周囲の人との関係のなかで生き生きと活動している状態のことであり、近年
OECDやユネスコでも教育の達成目標として重視している。

新しい「学びの指標」とは

新しい
「学びの指標」

- 1 考え方(理念)
- 2 具体的な指標(質問形式)
- 3 活用

1 考え方(理念)

これまで、学校、特に中学校・高等学校における個々の生徒の「学びの成果」は、各教科・科目の試験の点数・順位や評定、模擬試験の偏差値や進路先など、受験等の学力に重きが置かれ、他の生徒との比較により相対的に見られる傾向が強く、結果として、必ずしもすべての生徒のモチベーションの向上につながっていない面がありました。そればかりか、相対的な位置が低いことや、努力が「成果」として反映されないこと、周囲の期待に応えられないことなどに悩み、自己肯定感を喪失したり、苦しんだり、学びに背を向けてしまったりする生徒がいました。

それぞれの学校も、生徒が生き生きと学ぶことのできる空間であるかといった観点よりも、多くは、入試の難易度、外部試験の度数分布や平均点、進路結果など、他校と比較し、相対的にみることによって評価される傾向がありました。

変化が激しく、正解がない時代を迎え、一人ひとりのいのちや人権、個性が尊重されることますます大切になっています。そのような中であって、学校においても、これまで以上に一人ひとりの生徒の存在や、そこから立ち上がる学びや意欲を重視していくことが大事だと考えます。

新しい「学びの指標」は、教科・科目等の学びをはじめ、日々行われる学びの総体の中で、生徒一人ひとりがどのような状態にあるかをみるものです。生徒は、質問に答える形で、他の生徒との比較ではなく、自分自身の状態そのものを見つめ、自己を認識します。学校・教員は、その認識を受け止め、受容し、支援します。その上で、生徒の変容や成長を見逃さず、さらに支援を継続していきます。従って、すべての生徒がすべての面において同じ到達度を目指す必要はなく、個人差や凸凹があってもよい、むしろあるのが当然だ、と考えています。

また、新しい「学びの指標」は、各学校において、生徒一人ひとりが真の意味で大切にされ、生徒が生き生きと学ぶことのできる空間になっているかを検証したり、学校教育目標や「3つの方針」*の妥当性・実効性の検証に用いたりするとともに、教育活動や指導の改善・充実に向けた検討にも活用します。

「学びの指標」は、導入すること自体が目的ではありません。ここに示した例や他校での実践などを参考に、各学校が、生徒・保護者ととともに、不断の見直しや研究、創造的な取組を行い、理念をよりよい形で具現化していくことが必要です。

また、生徒が卒業後に様々な路に進むことを考えれば、この新しい「学びの指標」が学校に閉じるのではなく、県内の企業・大学関係者などをはじめとする県民のみなさんと、対話等を通じて、恒常的にその理念や実際の取組などについて共有を図っていくことも重要になります。

これら様々な取組を通じて、いのちや人権、努力や個性等が真に大切にされる学校・社会を実現していきたいと考えています。

*「3つの方針」：各校が課程別に策定している「生徒育成方針」、「教育課程編成・実施方針」、「生徒募集方針」のこと。

2 具体的な質問

(1) 新しい「学びの指標」の質問

新しい「学びの指標」では、全県共通質問と学校独自質問を設定し、生徒がそれらに対して「自分自身をどうみるか」、「なぜそう思うのか」について答えます。

全県共通質問に対しては、各質問について、「自分自身をどうみるか」を生徒が選択肢の中から選んで答えるとともに、「なぜそう思うのか」について記述します。学校独自質問への回答方法は、各学校が適切に定めます。

(2) 質問の設定

① 全県共通質問

県全体の学びの充実度を検証するため、次の3つを全県共通質問とします。

- 自分なりの価値観や考え方をもっている
- これから先、どのように生きていきたいかを考えている
- 自分にはよいところがあると思う

② 学校独自質問

学校独自質問は、「学びの指標」の考え方（理念）を踏まえて、各学校の学校教育目標や「3つの方針」、特色・状況等に応じて、学校ごとに適切な内容を設定します。

設定の主体は、学校（全校生徒共通の質問、学年ごとの共通の質問など）や生徒（生徒が各自で設定する質問）、学校が選択肢を設定し生徒が選択するものなどが考えられます。学校が主体となって質問を設定する場合でも、生徒とともに検討したり、生徒の意見を聞いて質問内容を再検討したりするなど、生徒が質問の設定にかかわりながら、常に見直しをしていくことが大切です。

なお、質問内容については、次の2つの観点を踏まえて設定します。

(a) 生徒にとって

一人ひとりが、学校における学びについて、他者との比較ではなく、自分自身を振り返り、見つめることができる質問であるか。また、それらを活用することによって、学び続ける意欲をもてるものであるか。

(b) 学校・教員にとって

学校が、生徒一人ひとりの存在や人権、個性を大切にし、生徒が生き生きと学ぶことのできる空間になっているかを確認できる質問であるか。また、自校の教育内容等について、その改善やさらなる充実につなげられるものであるか。

3 活用

生徒は、他者との比較ではなく、自分自身の過去と現在を見つめることで、現在の自己を認識するとともに、自身の変容・成長等を自覚します。

学校は、次の2つのフィードバックとして活用します。

(1) 生徒へのフィードバック

教員が生徒一人ひとりの回答に着目し、個人面談や三者面談、あるいは日常の生徒との対話などを通じて今の状態を受け止め、受容するとともに、変容・成長を受け止め、支援し、励まします。また、家庭においても子どもたちの状態を受け止め、支援していくことが大切です。

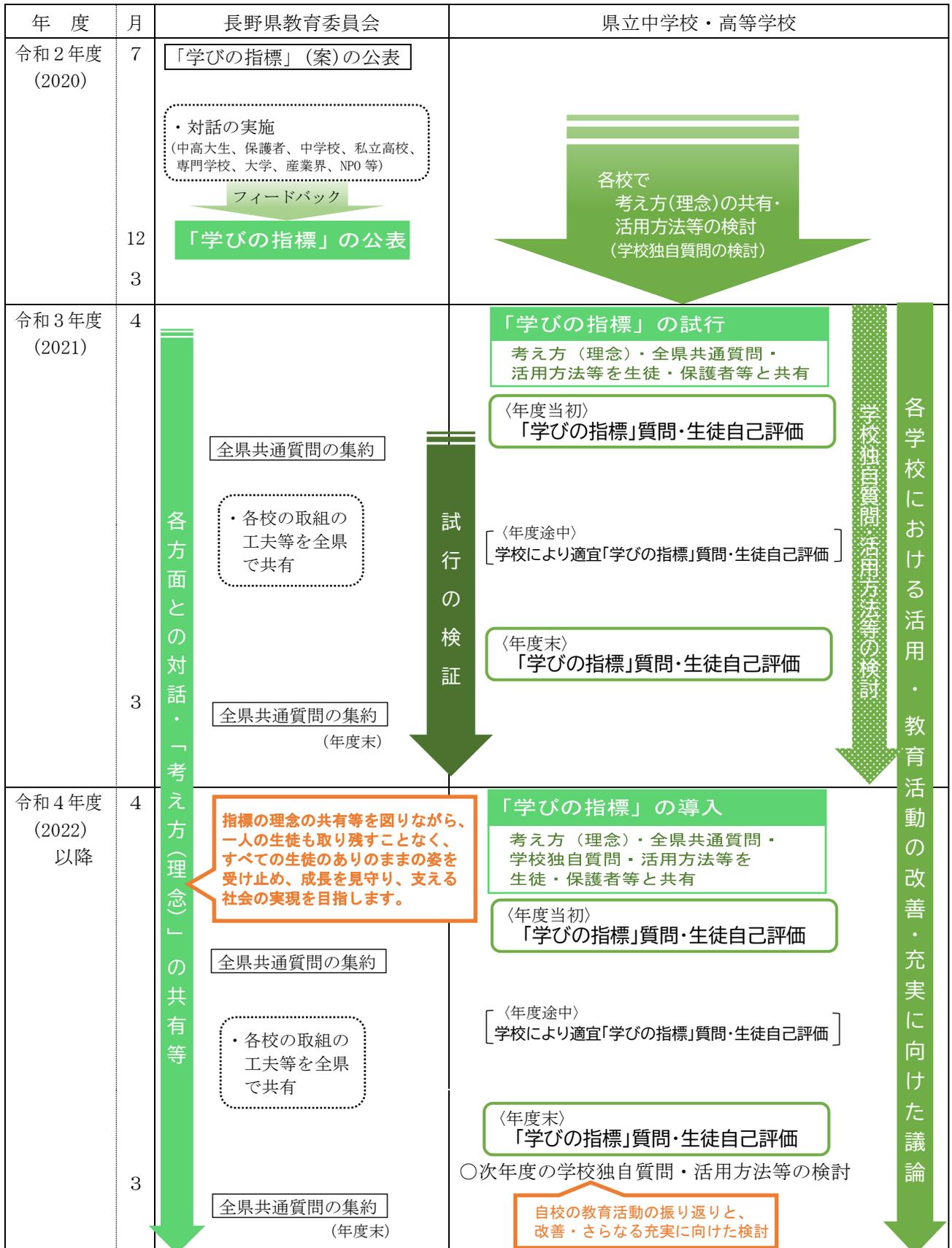
(2) 学校・教員の教育活動へのフィードバック

学校は、職員会や学年会等を通じて自校の教育内容や指導について振り返り、学校教育目標や「3つの方針」の妥当性・実効性の検証などに用いるとともに、教育活動や指導の改善、さらなる充実に向けた検討に活用します。

4 運用スケジュール（イメージ）

令和3年度は、全県共通質問を用いて全校で試行。

令和4年度以降は、試行の検証を踏まえ、全県共通質問及び学校独自質問を用いて全校での導入を検討。



長野県立中学校・高等学校 新しい「学びの指標」

参考資料

個人と社会のWell-beingの実現

〈 Well-being 〉
Well-beingとは、一人ひとりが心身の潜在能力を発揮し、人生の意義を感じ、周囲の人との関係のなかでいきいきと活動している状態のことであり、近年OECDやユネスコでも教育の達成目標として重視している。

長野県立中学校・高等学校 〈つきたい力〉

OECDラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030 〔より良い未来の創造に向けた 変革を起こすコンピテンシー〕	中央教育審議会答申(平成28年12月) 〔育成を目指す資質・能力の三つの柱〕	長野県教育委員会 高校改革 ~夢に挑戦する学び~ 実施方針 〔高校教育が目指すべき方向性〕
① 新たな価値を創造する力 ② 責任ある行動をとる力 ③ 対立やジレンマに対処する力	① 何を理解しているか、何ができるか (生きて働く「知識・技能」の習得) ② 理解していること・できることをどう使うか (未知の状況にも対応できる 「思考力・判断力・表現力等」の育成) ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい 人生を送るか (学びを人生や社会に生かそうとする 「学びに向かう力・人間性等」の涵養)	① 自ら立てた問いに対し、チームとして 協働しながら解を見つけ、新しい価値 を主体的に創造していくことができる 資質・能力の育成。 ② 「一度しかない人生を自分はどう生 きたいか」という自分の人生を構想す る力(キャリアデザイン力)の育成。 ③ 信州に根ざした確かなアイデンティ ティと世界に通じる広い視野、資質・ 能力の育成。

長野県立中学校・高等学校 〈目指す学びと学びを実現するための環境〉

- ① 生徒一人ひとりが安心して「探究的な学び」をすすめることができる学校
(安心して自身の意見を言える環境)
- ② 「探究的な学び」(主体的・対話的で深い学び)を取り入れた授業・教育活動
- ③ 信州学等を含む地域資源を有効活用した課題解決学習や、キャリア教育の視点から自己のあり方や
生き方、社会との関わりについて考えを深める学びの充実
- ④ 学習・生活環境、ICT環境の整備と充実

長野県〈学びの風土〉

信州教育

- 知・徳・体の調和のとれた人間教育を目指す「全人教育」
- 学びの主体者である生徒を中心に据えた教育
(子どもが本来持っている主体性と学ぶ意欲への信頼を根幹にした教育)

長野県の歴史と県民性

- 過酷な自然環境に打ち勝つために果敢に自己革新を重ね、一人ひとりが常に向上心を持って主体的に学習
活動に取り組んできた歴史
- 自ら学び、自ら考え、自ら行動を起こし、自ら主体的に取り組む風土と県民性

質問設定参考例

※以下は、各学校が、学校独自質問を設定する際の一助となるように示したものです。

質問項目の例		質問の例	出典
リテラシー	読解力・表現力	目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている	国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 一部抜粋
		多様な人々へ、相手の立場や背景を考えながら分かりやすく伝えることができる	福島県立ふたば未来学園高等学校 ふたば未来学園で育てたい力(人材育成要件・ルーブリック)
	科学的考察力	現象を科学的に説明することができる	国立教育政策研究所 生徒の学習到達度調査(PISA) 2018年調査国際結果の要約 一部改
		データと証拠を科学的に解釈することができる	
情報活用能力	情報を適切に活用して、問題を発見・解決することができる	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編 一部抜粋・一部改	
言語コミュニケーション能力	正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして合意形成・課題解決することができる	文部科学省教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チーム(第3回)配付資料5 言語能力について(整理メモ) 一部抜粋・一部改	
	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙	
学ぶ力・学びを支える力	探究力・論理的思考力	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えている	福島県立ふたば未来学園高等学校 ふたば未来学園で育てたい力(人材育成要件・ルーブリック) 一部改
	批判的思考力(クリティカルシンキング)	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野で既知の事実について批判的に考えている	福島県立ふたば未来学園高等学校 ふたば未来学園で育てたい力(人材育成要件・ルーブリック) 一部抜粋・一部改
	創造力・発想力	常識にとらわれずに創造的に考え、新たなアイデアを生み出せる	福島県立ふたば未来学園高等学校 ふたば未来学園で育てたい力(人材育成要件・ルーブリック) 一部抜粋
	「自分軸」の確立	自分の価値観、考え方、態度・行動などを見つめ、整理し、自分の言葉で説明することができる	学校法人 嘉悦学園 かえつ有明中・高等学校 6年間で身につける知識と資質・能力 参考
	協働性・共生力	自分とは異なる意見や価値を尊重している	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム・三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社高校魅力化評価システム 一部改
	回復力(レジリエンス)	失敗の経験を生かそうとしている	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書 一部改 石毛 みどり・無藤 隆 カウンセリング研究 38(3), 235-246, 2005-10 中学生におけるレジリエンシー(精神的回復力)尺度の作成 一部抜粋・一部改
		失敗してもあきらめずに方法を変えてもう一度挑戦している	
学びの有用感	勉強は大切だ	国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成17年度教育課程実施状況調査	
	今学んでいることは、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書	
社会性	キャリアデザイン力	将来の夢や目標を持っている	国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙
		これから先、どのように生きていきたいかを考えている	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書
	シチズンシップ・社会貢献への能動性	日本や世界で問題になっていることについて、自分なりの考えを持っている	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書
社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している		日本財団 18歳意識調査第20回社会や国に対する意識調査詳細版(日本)	
自他を認める力	自己肯定感	自分は、努力すれば、たいていのことができるようになると思う	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書
		自分には、よいところがあると思う	国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙
	自己効力感	自分で社会を変えられると思う	日本財団 18歳意識調査第20回社会や国に対する意識調査詳細版(日本) 一部改
		私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない	内閣府 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度)
	共感力・寛容性	人の気持ちを分かろうとしている	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書
自分と違う意見や考え、気持ちも大切にしている		杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書 一部改	
幸福感	学校の生活は充実している	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書	

Q1 「学びの指標」は、学校でどのように活用するのでしょうか。

学校における新しい「学びの指標」は、大きく2つのことを目指しています。一つは、各校が進める新しい学びの総体的な成果を確認し、各校の教育活動の改善及びその一層の充実につなげることです。もう一つは、その活用により、生徒を他の生徒と比較して相対的にみることや、その相対的な位置に価値を置くことを極力排し、一人ひとりの存在や個性、考え方を受容し、大切にするとともに、変容や成長についても受け止め、生徒を支援していくことです。それにより、生徒が学ぶことの意義や喜びを実感するとともに、すべての生徒が大切にされ、生き生きと学ぶことのできる学校空間にしたい。そして、そのような空間における学びを、生徒個人と社会の Well-being の実現につなげていきたい、という想いを込めています。

学校では、生徒へのフィードバックと学校の教育活動へのフィードバックとして活用します。

生徒に対しては、個人面談や三者面談、あるいは日常の生徒との対話に用いたり、通知票等に生徒の具体的な様子、変容・成長を記載したりすることが考えられます。

また、学校の教育活動に対しては、「生徒にとってより充実した学びとなるためにさらに工夫することはないか」、「学校は、生徒が生き生きと学ぶことができる空間になっているか」等の視点から、「3つの方針」や教育課程等の見直しに向けて、職員会や校務分掌等での検討に用いたり、学年や生徒会、部活動等の活動の充実に向けた検討に活用したりすることが考えられます。

「学びの指標」は、生徒の自己評価を実施するだけに留めず、各学校がいかに活用するかが重要となります。生徒へのフィードバックと各学校の教育活動へのフィードバックがなされること、さらには効果的なフィードバック方法や質問そのものについて、生徒や保護者等とともに常に検討・見直しが必要だと考えています。県教育委員会としても、活用の充実に向けて、取組事例等の各学校への情報提供等に努めていきます。

Q2 「学びの指標」は成績に反映されるのですか。

「学びの指標」は、生徒が自分自身をどうみているか、どうしてそう思うのかを、設定した質問に対して答えるものです。生徒による自己評価ですので、それを直接、各教科・科目等の成績(評価・評定)に反映することはありません。

Q3 全県共通質問・学校独自質問として示された内容は、すべての生徒がそうなるように求められているのですか。

「学びの指標」の質問は、全県共通質問・学校独自質問ともに、育成を目指す資質・能力等のうち、特に重点的なものとして設定するものです。

学校における学びの総体として、質問として示されるものがすべての生徒の中で高まっていくことが期待されますが、全員が同じ到達度である必要はなく、個人差や凸凹があってもよい、むしろあるのが当然であると考えています。

重要なのは、生徒が自分自身をしっかりと見つめ、変容や成長等を自覚的に捉えること、教員が個々の生徒の現状を受け止め、受容し、励ますとともに、それぞれの変容や成長を見逃さず、支援すること、そして、学校の教育活動の改善・充実に生かすことです。このことを通じて、学校を、生徒一人ひとりの存在や個性が大切にされ、生き生きと学ぶことのできる空間にしていくことが大事です。

Q4 現在、就職試験や大学等の入試では点数や評定による評価が多く用いられる中で、長野県の県立中学校・高等学校だけが生徒に対して「学びの指標」を導入することにどんな意味があるのでしょうか。

変化が激しく、正解がない時代を迎え、一人ひとりの個性が尊重されることがより重要であるという認識のもと、接続先である大学・企業等の入学・就職試験や教育等も変わってきています。

例えば大学入学者選抜において、総合型選抜（従来のAO入試）や学校推薦型選抜（従来の推薦入試）といった、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法に重きをおく大学が、年々増加しています。

また、企業経営者の方々からは、「入社の際に面接の際に大学名を見ることはあまりなくなっている」、「一人ひとりに焦点をあてて育てること、自信を持たせることが、日本や世界にとって重要な時期に来ている」というご意見をいただいています。

このような変化は、今後もさらに広がることが予想されますが、それ以上に、生徒が高校卒業後に様々な進路先や社会で新しい時代を生きていくことを考えたとき、学校では、これまで以上に一人ひとりの生徒の存在や、そこから立ち上がる学びや意欲を重視していくことが重要だと考えます。そのため、生徒・保護者を始め、県内の企業や大学等上級学校の関係者等、県民の皆さんに「学びの指標」の考え方（理念）に対するご理解を広めていくことが大切だと考えます。

新しい「学びの指標」の導入により…

教員は…

一人ひとりの生徒を受け止め・支える
教育活動の工夫・改善

Aさんの個性を大切にしたい！



あの活動、少し変えてみよう！

Aさん、伸びてきたね！

議論のきっかけ・活性化

生徒は…

自分自身の捉え方の変化

私は、私でいいんだ！

学んで楽しい！

学びへのエネルギー

自信が湧いてきた！

もっと、いろいろなことに挑戦したい！

安心感



保護者は…

子どもたちに対する見方・接し方の変化

あの子、こんなこと考えて、頑張っていたのね！



認め励まし

* 学びの指標検討会（令和元年10月～令和2年3月）

○座長

- 小村 俊平 日本イノベーション教育ネットワーク（協力 OECD）事務局長
- 丸山 将一 エムケー精工株式会社代表取締役社長
- 藤森 裕治 信州大学学術研究院教育学系教授
- 北澤 嘉孝 長野市立東部中学校長
- 上野 敏 長野工業高等学校長
- 岩田 学 篠ノ井高等学校長
- 廣田 昌彦 上田高等学校長
- 内堀 繁利 高校教育課高校改革推進参与
- 佐倉 俊 学びの改革支援課参事兼課長
- 斉藤 則章 学びの改革支援課教育幹兼高校教育指導係長
- 曾根原好彦 学びの改革支援課義務教育指導係長
- 山崎 裕史 高校教育課管理係主幹指導主事
- 小川 幸司 学びの改革支援課高校教育指導係主幹指導主事
- 小山田佳代 学びの改革支援課高校教育指導係主任指導主事

（敬称略）



学び応援キャラクター「信州なび助」
©長野県教育委員会
デザイン制作=高校生× 同学園トータルデザインアカデミー